

当院発熱外来における 新型コロナウイルス感染症患者 の現状と考察

病院名 医療法人はごろも会 仲本病院

発表者氏名 ○中野久乃

共同発表者 新垣 智代 平井 利智子 安里 美樹 小橋川 友樹 翁長 由貴亜 與那覇 正樹
玉城 清嗣 玉城 静 玉城 仁



Nakamoto hospital

<https://www.hagoromo.or.jp/>

背景

2020年から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染が拡大する中で、2021年12月～2022年1月にかけて当院外来でも発熱患者数が急激に増加した。今回、発熱患者の発生状況、現場での取り組みについて報告する

調査対象期間

2021年12月25日～2022年1月25日

調査対象者

当院発熱外来受診患者

調査方法

記述疫学

- 1：流行曲線
- 2：年齢分布
- 3：ワクチン効果

検査方法

- ①核酸検出検査（NARE法）
- ②唾液PCR検査+抗原検査
- ③唾液PCR検査のみ
- ④抗原検査のみ



調査項目

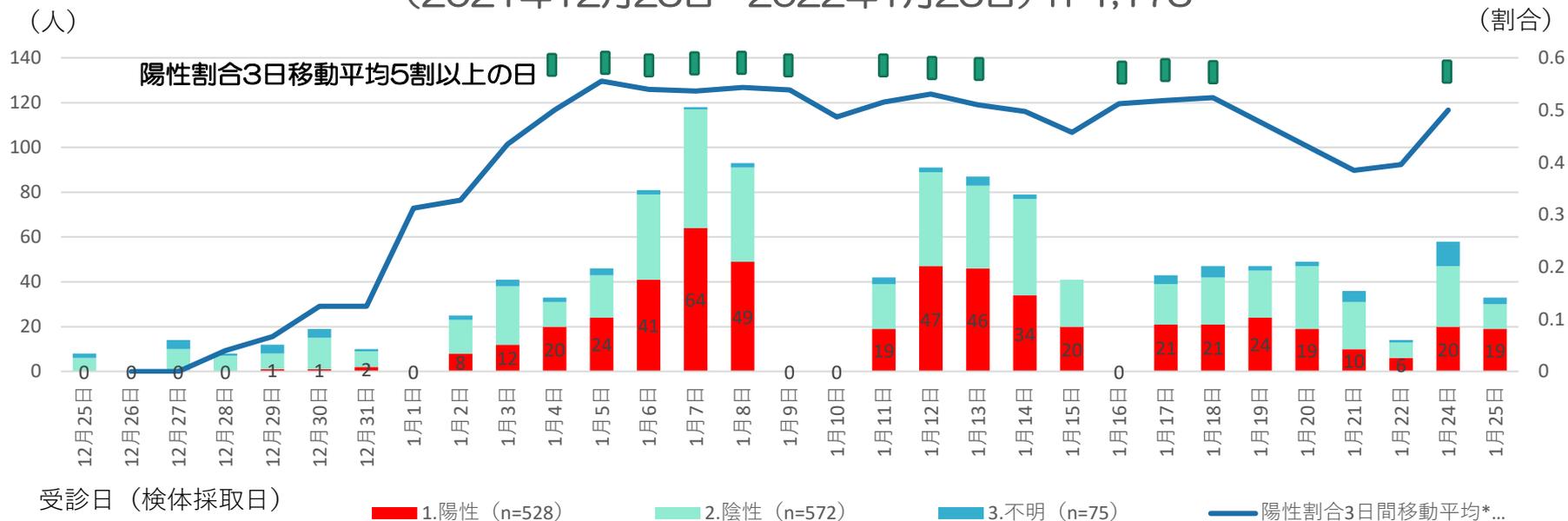
1. 問診年月日
2. カルテ番号
3. 検査方法：①遺伝子核酸検査（NARE法）
②唾液PCR検査+抗原検査
③唾液PCR検査のみ ④抗原検査のみ
4. HER-SYS ID
5. 患者氏名, 6. 性別, 7. 生年月日, 8. 年齢
9. 居住地（例：那覇市）居住地（その他）
10. 喫煙歴：有無のみ
11. 妊娠有無 在胎週数(妊娠有時のみ記入)
12. 基礎疾患：①悪性腫瘍 ②慢性腎臓病 ③高血圧 ④糖尿病
⑤脂質異常症 ⑥肥満 ⑦呼吸器疾患 ⑧COPD
⑨喘息 ⑩脳血管疾患 ⑪認知症 ⑫透析
⑬免疫抑制剤 ⑭抗がん剤 ⑮その他（ ）
13. 新型コロナワクチン接種回数：
接種有り：（1回目）ワクチン種類 1回目接種日
接種有り：（2回目）ワクチン種類 2回目接種日
接種有り：（3回目）ワクチン種類 3回目接種日
14. コロナ罹患歴：症状・いつ頃から（＝発症日）
15. 来院時体温（℃）
16. 症状：①頭痛 ②咳嗽 ③咽頭痛 ④強い倦怠感 ⑤鼻水 ⑥筋肉痛・⑦関節痛 ⑧吐き気／嘔吐 ⑨下痢
⑩その他症状（ ）
17. 他院への紹介有り
18. コロナ確定例/疑い例が周囲にいますか（感染源）：家族や同居者の可能性 感染源 知人の可能性
19. コロナ検査希望の有無
20. SpO2（％）

（実際の発熱患者用問診票）

問診年月日：令和4年 月 日		病院記載欄	
カルテ番号：()		<input type="checkbox"/> CO-Now(HEARS法) ⇒ 陽性(+)/陰性(-) <input type="checkbox"/> 抗原検査 ⇒ 陽性(+)/陰性(-) <input type="checkbox"/> PCR検査(唾液) ⇒ 陽性(+)/陰性(-)	
フリガナ：()			
氏名：()			
性別：男・女	生年月日：(西暦) 年 月 日 (歳)		
住所：()		職業：()	
連絡先①(本人)：()		連絡先②：(続柄) ()	
喫煙歴：無・有 (歳 ~ 歳 本/日)		妊娠：無・有 (週目)	
アレルギー：無・有 ()			
【基礎疾患】			
悪性腫瘍 慢性腎臓病 高血圧 糖尿病 脂質異常症 肥満 呼吸器疾患			
COPD 喘息 脳血管疾患 認知症 透析 免疫抑制剤 抗がん剤 ・不明			
その他 ()			
【新型コロナワクチン接種歴】 接種 ・ 未接種			
1回目： 年 月 日 ・ 不明	種類：ファイザー ・ モデルナ ・ 不明		
2回目： 年 月 日 ・ 不明	種類：ファイザー ・ モデルナ ・ 不明		
3回目： 年 月 日 ・ 不明	種類：ファイザー ・ モデルナ ・ 不明		
コロナ罹患歴：無・有 (期間： ~ 病院：)			
【症状・いつ頃から】			
いつ頃から (月 日 ~)			
発熱(℃) 頭痛 せき 痰 のどの痛み 倦怠感(たるさ)			
鼻水 関節痛 吐き気/嘔吐 下痢 嗅覚・味覚障害			
その他症状 ()			
Q. コロナ疑いの方または陽性者が周囲にいますか？ 無・有 (家族・知人・その他)			
Q. 新型コロナウイルスの検査を希望しますか？ はい・いいえ・医師の判断に任せる			
病院記載欄			
担当医：()	SpO2: () %	HER-SYS ID: ()	発症日: ()

結果1：流行曲線

仲本病院発熱外来における新型コロナウイルス検査受診状況の推移
(2021年12月25日～2022年1月25日) n=1,175



2022年1月2日から発熱外来受診患者が急増し1月7日にはピークを迎えた

- 1月7日発熱外来受診者数：約100名超
(予約患者と合わせて外来患者総数213人←通常の日平均外来患者数：約80名)
- 2022年に入り陽性割合3日間移動平均は常に3割以上で、1月25日までに5割以上であったのは13日を数えた (25日間の52.0%)

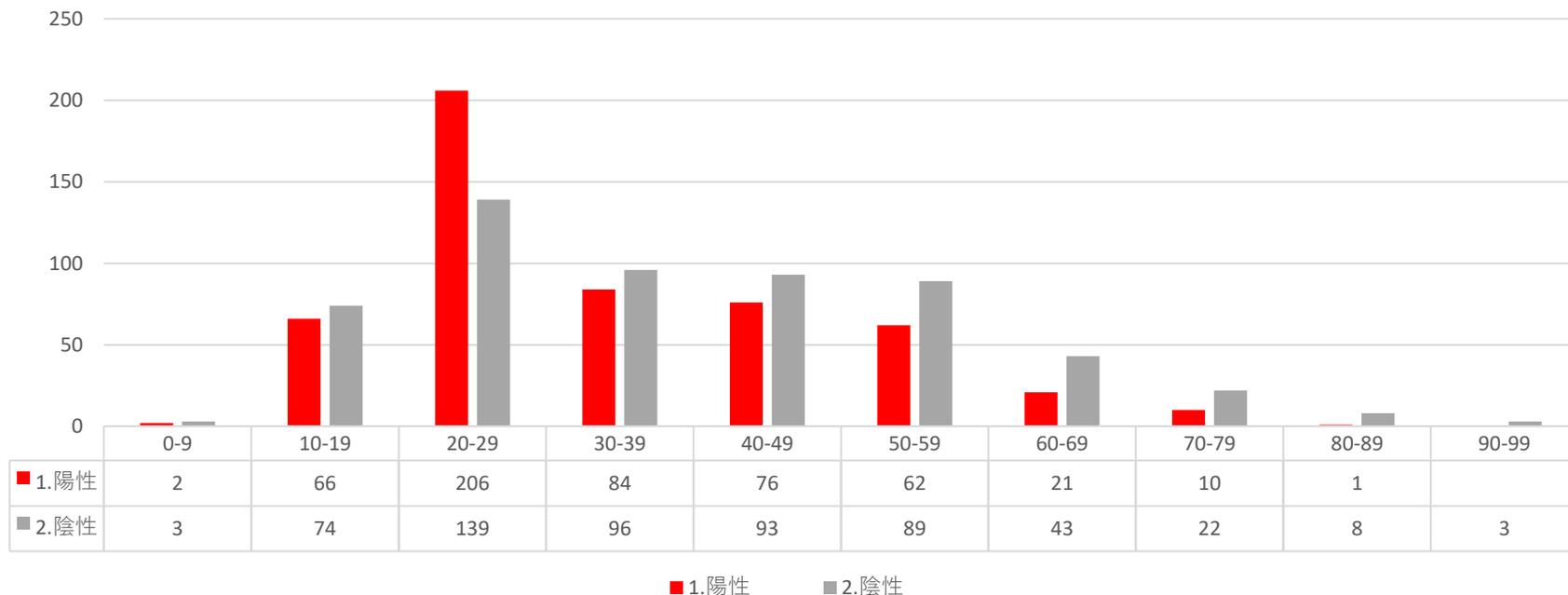


Nakamoto hospital

<https://www.hagoromo.or.jp/>

結果2：年齢分布

新型コロナウイルス年代別陽性者数・陰性者数
(2021年12月25日～2022年1月25日) n=1,093*不明を除く



💡 年代別に150名以上の発熱患者は、20代が一番多く345名(31.6%)、次いで30代180名(16.5%)、40代169名(15.5%)、50代151名(13.8%)、10代140名(12.8%)の順であった

💡 年代別に50人以上の発熱患者で陽性割合が最も高かったのは20代59.7%で、次いで10代47.1%、30代46.7%、40代45.0%、50代41.0%、60代32.8%の順であった



Nakamoto hospital

<https://www.hagoromo.or.jp/>

結果3：ワクチン効果

	検査陽性	検査陰性	不明	合計	オッズ比 (95%信頼区間)	ワクチン効果 (95%信頼区間)
接種無し	134	96	11	241	1	1
接種1回	5	6	1	12	0.59 (0.18-2.01)	40.3 (-101.3-82.3)
接種2回	257	296	32	585	0.62 (0.46-0.85)	37.8 (15.1-54.4)
接種3回	0	11	1	12	0 (計算不能)	100 (計算不能)
接種3回 各セル+1	1	12	2	13	0.06 (0.01-0.47)	94.0 (53.2-99.2)
不明	132	163	30	325		
総計	528	572	75	1175		

- 💡 1 からオッズ比を引き算しワクチン効果 (Vaccine effectiveness : VE) を計算
 - オッズ比が1なら無相関
 - 1より小さければ、その要因曝露により発症予防 (*) 信頼区間が共に1以下
 - 1より大きければ、その要因の曝露者に発症リスク高い
- 💡 2回接種群・3回接種群の全年齢を合算しTest-negative designを用いてVEを推定
 - 2回接種群：全年齢でVEは37.8% (範囲15.1-54.4%) と推定
 - 3回接種群：接種者数少なく (0の項あり) 計算不能なため、便宜的に各セルに1を足して、全年齢でVEは94.0% (範囲53.2-99.2%) と推定



発熱患者対応の状況

発熱患者は、院内には入らず、駐車場か玄関前テントでの対応を行っている。通常の予約患者との動線を完全に分け、徹底した感染対策を心がけている。また、患者への安心と安全を提供するため、特に「PPEの着脱」や「感染経路別予防策」の職員教育や指導を徹底している



Nakamoto hospital

<https://www.hagoromo.or.jp/>

結果及び考察

- 新型コロナウイルスのオミクロン株による第6波の際（2021年12月25日－2022年1月25日）に、当院で実施した発熱外来では急激な患者数の増加を経験し、通常時の約2.7倍の患者（コロナ陽性率5割以上）が外来に殺到した
- 当院で診断した陽性患者の発生は、那覇市や沖縄県全体とほぼ平行に推移しており、那覇市の約10%、県内の2%を締めていた（データ示さず）。
- 当院を受診した発熱患者の年齢分布としては20代を中心とする若年成人が最も多く（陽性割合も高く）、高齢者は少なかった（陽性割合も低かった）

- 全年齢を対象にしたワクチン効果の分析では、既知の情報と同じく、高齢者のみならず、若年成人から高齢者まで、少なくとも3回の接種を確実に受けておくことが発症予防においても有効である傾向がみられる。
- 調査の制約として、分析対象者数が少ない、接種後の期間を考慮していない、受診者数の激増による看護師による問診が不十分だった等の制約を複数含む。
- その他の示していない情報としては、発症日から受診までの日数は平均して2日、感染源として：
①忘年会、新年会などの外食、②家族間感染の情報があった。
- 症状の特徴：発熱・咽頭痛で咳嗽・呼吸苦等の呼吸器症状やSATO2の著しい低下等はあまり見られなかった。
- 唾液PCR検査の結果報告まで2日以上かかるため、抗原検査を同時に行った。検査当日に一応の結果が分かり患者の待ち時間による不安の軽減と早期対応に繋がった。
- 発熱患者に対する施設外での対応を行い、職員の感染対策強化を徹底していることは職員と患者の安全提供に有用である。



結語

当院では、オミクロン株の急増下における発熱外来の経験を通して、患者増加という点については若年成人患者への対応が重要であること、特にワクチン接種については若年成人から高齢者まで少なくとも3回の接種を確実に受けておくこと、さらに基本的な感染管理に対する職員の対応強化が重要であること、が強く示唆された。

参考文献

国立感染症研究所. 新型コロナワクチンの有効性を検討した症例対照研究の暫定報告（第三報）
（2022/2/15） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/10966-covid19-71.html>



Nakamoto hospital

<https://www.hagoromo.or.jp/>